

会議録

| | |
|--|---|
| 会議の名称 | 社会教育委員の会議（12月定例会） |
| 開催日時 | 平成22年12月17日（金曜日）午後2時から午後4時30分 |
| 開催場所 | 保谷庁舎3階 第2会議室 |
| 出席者 | 委員：濱崎議長、小川委員、倉島委員、齋藤委員、白木委員、須永委員、本田委員、宮崎委員（五十音順） （欠席：松嶋副議長、稲葉委員、岡村委員、本領委員、山田委員） 事務局：磯崎課長、神田係長、山中主事 |
| 議題 | (1) 提言について (2) 委員研修会について (3) その他 1 社連協全体交流会（11月26日午前）の報告 2 関東甲信越静社会教育研究大会（11月26日午後・11月27日午前）の報告 3 地域教育フォーラム（11月27日午後）の報告 |
| 配布資料 | みんなの生涯学習 No. 102号 委員研修報告「関東甲信越静社会教育委員大会第五分科会報告」 委員活動報告 「谷戸第二小学校地域生涯学習事業の問題点」 「住吉小学校施設開放運営協議会の活動について」 |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録 |
| 会議内容 | |
| <p>平成22年11月定例会議の会議録を1箇所訂正後、承認する。</p> <p>(1) 提言について</p> <p>○議長： 前回に引き続き、地域活動について聞き取りをすることになっていたが、まとめていただいていた資料もありますので、それぞれご報告をお願いします。</p> <p>○委員： 谷戸第二小学校の地域生涯学習事業について報告します。問題点については、配布資料「谷戸第二小学校地域生涯学習事業の問題点」のような内容が指摘されていた。旧田無地区の学校施設開放運営協議会は、発足時には学校施設開放事業だけを委託されていたが、合併後に学校施設開放事業の他に地域生涯学習事業も委託されるようになったという経緯がある。一方、旧保谷地区の学校には、合併前に施設開放運営協議会はなかった。学校施設開放運営協議会は合併後に発足しており、学校施設開放事業と地域生涯学</p> | |

習事業に同時に取り組むことに違和感がないようである。旧田無地区の学校施設開放運営協議会ではなぜ自分たちが引き受けなければならないのかという思いがあり、熱が入らないところがあるようだ。事業への協力者探しも、こういう仕事を継続的に行える人は限られており、その人に負担がかかる。また、後継者が育たないという問題もある。費用の面でも事業によっては十分な費用が出ないのでやりたい事業ができない、広報活動も市報などに催し物として掲載してもらえない、学校からの協力や社会教育課からの支援も十分に得られないという状況があり、やって良かったという達成感がなかなか得られないといったこともあるようである。

○委員：

地域生涯学習については、責任感がある分、負担に感じているような感じだった。

○委員：

お話を伺ったお二人は、このような活動は嫌ではないとおっしゃっていた。意義があるものだと思っており、成果を感じたときはやって良かったと思うようだ。ただ、その過程でトラブル等があり嫌な思いをされたこともあったようだ。

○委員：

自分がやれることはいくらでもやりたいという感じだった。

○委員：

気持ちがある分、結果が出ないとやる気も起こらないのではないか。モチベーションが高いのに、学校等も含め周りからの協力が得られないとモチベーションも下がってしまうだろう。

○委員：

行政に委託されているが、地域の中にもつながりがなく、学校の協力も得られず、運営協議会としての先が見えないという感じだった。自分たちのやることに関してもっと情報が入ったり、他校との交流などの横との連携があったりする状態であれば、もっと活動しやすくなるのではないか。

○委員：

学校側や先生の対応など、もっと理解を得られるよう、行政の方から働きかけてもらえないかという意見もあった。

○議長：

次に住吉小学校の学校施設開放運営協議会の活動についての報告をお願いします。

○委員：

現在、住吉小学校の施設開放運営協議会運協は6つほどの地域生涯学習事業を実施しているが、そのほとんどが年一回の開催で、あまり無理をしていない。やれることからやろうというスタンスである。運営協議会の委員の構成だが、学校施設を利用しているスポーツ団体の代表が委員になっており、二人の副会長のうち一人が小学校の副校長と

決められているので、学校との連携は極めて良好であり問題がない。組織の中に学校を組み込んでいます。

○委員：

谷戸第二小学校もそのような組織であるが、学校側との連携協力関係は、各学校施設開放運営協議会によって違うようだ。

○委員：

住吉小学校の運営協議会は、月一回定例会を開催しており、委員の全員が事業の企画に関わり、積極的で充実した話し合いがなされている。また、地域生涯学習事業は子どもを対象とした事業を展開することで公民館との差別化を図っており、その延長線上に親子の行事がある。初めから大人をターゲットとした事業を計画していない。子どもを対象とした事業が定着していて、その中で親子を対象とした講座を企画して、地域を取り込んでいこうという考えのようだ。イベントのチラシなどは児童に持ち帰ってもらうが、親子対象のものなどは、張り紙や学区内でのポスティングをして地域の一般住民にも知らせている。事業がうまくいくと、口コミの成果も期待できるとしている。

○委員：

できる範囲で活動している。子ども対象でいいのだという意識があって、無理をしていない。負担なく、気持ちに余裕を持って事業に取り組んでいるようだった。

○委員：

今後の取り組みとしても、地域の特色を生かして、世代間交流や福祉会館との連携、まつりの実施など、学校も含め地域を巻き込んだ事業を考えているようだ。

○委員：

地域のスポーツ団体との連携のあり方も、運営協議会の考え方によっては消極的なところもあるようだ。

○委員：

住吉小学校の運営協議会が学校との連携が良好で問題がないというのはキーポイントだと思う。関東甲信越静社会教育研究大会の第3分科会の岸氏の資料の中に、「小学校の機能と施設を活用した地域づくり」という言葉があった。これはかなり重要だと思う。

○委員：

事業を実施する上で学校の協力というのは大きい。住吉小学校でも、料理教室を実施するのに、以前は地域の消費者センターを借りてやったが、今年度は学校の家庭科室を借りる事ができたようだ。

○議長：

報告ありがとうございました。他に何か意見がありますか。

○委員：

次回の会議までに、また他の学校施設開放運営協議会の実情を聞いてこようと思う。社会福祉協議会の「ふれあいのまちづくり事業」についても調べてみたい。地域活動の担い手の方の話を聞くと地域が見えてくる。社会教育委員として何ができるか、あるいは何をすべきなのかを教えてくれるような気がする。引き続きそういう形の活動をしていきたい。

○委員：

今日配布された『みんなの生涯学習No. 102号』に東京都の取り組みとして「地域コーディネーター研修（出前研修）」の実施について掲載されている。今、学校施設開放運営協議会をやっている若いPTAのお母さんたちの中には、なかなかやりがいや成果が得られなくて悩んでいる人たちもいるようだ。仮に自分たちが地域コーディネーターという立場になると、モチベーションもあがっていくのではないかと思う。

○委員：

やはり社会教育課のほうから学校側にもう少し協力体制をつくってほしいと呼びかけてほしい。ボランティアでやっている方たちは精一杯やっている。学校で協力意識に差があるというのは問題だと思う。

○委員：

学校の中でも、一般の先生たちにまで地域生涯学習事業の取り組みは認識されていない。校長、副校長のほうで止まってしまっている。

○委員：

先生たちは学校教育の仕事のことで手一杯だろう。地域コーディネーターなどの人材が入ってうまく機能すると良いと思う。

○委員：

コーディネーター研修を受けた方が活躍できる場を設けることも重要だと思う。

○委員：

一般の先生たちに意識を高めてもらうにはどのようにしたらよいか。

○委員：

社会教育委員の提言は重いもの。社会教育課だけが扱うものではなく、教育長に提言をすれば、そこから教育委員会全体に伝わっていくものである。提言の中に学校側の協力体制などについても言及していければよいのではないかと思う。

○事務局：

現在地域生涯学習事業は、すべての学校施設開放運営協議会で実施できていない。なかなか委託する運営協議会も広がらず、減少してきている状況である。そのため、地域生涯学習事業を今後充実させていくためには、こういった課題があるのか整理をしていきたいということで、各学校施設開放運営協議会の管理者や副校長先生、構成員であ

る利用団体などを対象としたアンケート調査を実施しているところである。国は「放課後子どもプラン」について推進しているところであるが、西東京市については、児童館や学童クラブ、地域生涯学習事業など先駆的な取り組みを行ってきたということで、「放課後子どもプラン」のめざす仕組みは一定程度形になっているのではないかと思う。次期の社会教育委員の会議には、「放課後子どもプラン」への取り組みについてご意見を伺いたいと考えているが、新しい仕組みに塗り替えるのではなく、今やっていることを見直して整理をする中で、今後西東京市として必要とされる中身が何であるのかを考えていく必要があると思う。子どもプランがめざす仕組みや成果が地域全体の中に広がっていくためには、行政としてどのような形の制度に整えていけば良いのか、模索していくというようなことになると思う。

○事務局：

提言をまとめるために、地域活動の担い手である学校施設開放運営協議会について調査をしているが、その作業は、地域生涯学習事業の持つ意義を再確認していただいているのではないかと思う。今回の提言では、地域活動の担い手の人たちが活動できる機会として色々な組織や活動が地域に用意されていることや担い手の人たちを育て、支えていく仕組みや施策がたくさんあることなどが地域づくりには重要なのではないかという、総論を示していただく事になると思う。その中の一つに地域生涯学習事業があり、地域づくりに寄与する事業になっているのではないかという方向性を出していただければと思う。

(2) 委員研修会について

○議長：

提言をまとめるにあたって学習したいテーマはありますか。地域ネットワークづくりや担い手を育てていくにはどのようにしたら良いかという内容が考えられるが、いかがでしょうか。

○委員：

学校と地域との連携について学習したい。担い手の問題も含めて、関東甲信越静社会教育研究大会の第3分科会で報告者を務めた岸裕司氏の話を知りたいと思う。岸氏は肩の力を抜いて非常に楽しそうに活動しておられ、自分がこの町に住みたいと思わせるような話だった。

○委員：

前回のしらうめネットワークや今回の住吉小学校の事例を聞いて、学校との連携が重要であるということ、必ず核になる人がいるということが大事だと思った。第3分科会の報告を聞いて、岸氏の話を知りたいと思った。

○事務局：

地域づくりのしかけの事例は地域の特徴も含め多様である。地域づくり全体に共通する課題としては、大人たちの地域活動にかかわるという意識が希薄な中、担い手をどう継続していくのかという点があるだろう。講師にお願いする場合、一番聞きたいポイントが何かということを絞る必要がある。

○委員：

担い手をメインに講演をしてもらう場合、地域生涯学習事業に携わっている人たちもこの研修会に参加することができるのか。

○事務局：

せっかくの研修の機会なので、公民館運営審議会や図書館協議会の委員の方や、地域生涯学習事業の関係者などに声をかけることはできると思う。

○議長：

事務局から他に講師の推薦はありますか。

○事務局：

『みんなの生涯学習No. 102号』の中に、サポーターを育てるカリキュラムということで、東京学芸大学での取り組みが紹介されている。こういった取り組みに携わっている方々の話を聞くのも参考になるのではないかと思う。

○議長：

それでは、講師の第一候補を岸氏、第二候補は事務局におまかせするというところでよろしいでしょうか。

○全委員：

異議なし。

(3) その他

1 社連協全体交流会（11月26日午前）の報告

○事務局：

前任期委員の松本委員が表彰された。第4ブロック研修会の報告を濱崎議長が行なった。

2 関東甲信越静社会教育研究大会（11月26日午後・11月27日午前）の報告

○議長：

どのような感想を持たれたか、各自ご報告、感想をお願いします。

○委員：

記念講演で、子ども・若者の居場所「渋谷ファンイン」の話があった。そこに通っていた子どもたちが育ち、今度はその人たちが、そこに来た子どもたちの面倒をみるというつながりがあるということを知った。

○委員：

講師は、人と人とのつながりがもたらす循環という言葉を使っていた。

○委員：

そういう若者たちを取り入れると、大人たちも活気づくと思う。

○委員：

印象的だったのは、始めはサポーターとして地域の大人が遊び道具を提供したり、大学生を活用したりしようという動きもあったが、どうもうまくいかなかった。結局は、挫折経験のある若者をユースパートナーとして採用するというのが活性化につながったということだった。大人や良識をわきまえた大学生などでは務まらないところがあったようだ。午後のパネルディスカッションも刺激的だった。最近では社会教育の拡張・越境ということが言われているようだが、どういうことだろうか。

○委員：

色々なところとつながっている、隣接する分野にかかわっているという意味ではないか。

○議長：

翌11月27日は各分科会が開催されたが、その報告をお願いします。

○委員：

第1分科会は、乳幼児期からの家庭教育支援「社会的つながり」の必要性というテーマで行われた。東京都からの報告があり、行政の手だけでは、幼稚園児、つまり入園してから子どもたちには、幼稚園単位、学校単位で色々な政策が行われているが、親とだけ接している未就園児については、なかなか支援ができていないということだった。朝食をとらない子どものパーセンテージは未就園児が一番高い。親と一緒に行動しているので、早寝早起きができていないということで、そこから取り組んでいったら良いのではないかという話だった。その後、瑞穂町の社会教育委員から活動報告があり、未就園児と親を対象とした読み聞かせや、早寝、早起き、朝ごはんという生活習慣を含めた指導を行っているとのこと。読み聞かせは、近隣の中学生のボランティアを集めて行っており、社会教育においては、担い手の育成が必要であるということを示べられていた。

○議長：

第2分科会の出席者が本日は欠席のため、次に第3分科会の報告をお願いします。

○委員：

第3分科会は、地域活動に向き合う「学び」子ども・若者・高齢者の支援から見えてくる新しい社会教育のかたちというテーマで行われた。報告者の方々が個性的で、聴き手の私たちも考えが変わるほどの影響を受けた。報告者の岸氏は、色々な職業をお持ちで、会社も経営していながら、地域を巻き込んで色々なことに取り組んでいる。PTA活動が盛んで、地域力が高いところは、学力のレベルも高いということに過去10年をわたって記録されているということに感心した。また、NPO法人代表である別の報告者からは、民生委員とか児童委員が持っている情報は乏しいので、行政の持っている情報を活用してサポートしてほしいという話があった。

○委員：

NPO法人の方は、若者たちに向き合って、相談に乗ったり、就職支援などもしたりしているようだ。

○委員：

報告を聞いて、NPO法人のことをもっと知りたいと思った。

○議長：

第4分科会は参加者がいなかったなので、続いて第5分科会の報告をお願いします。

○委員：

第5分科会は、「「やりとりの復活」が紡ぎだす新しい公共空間 いま成人教育の果たす役割とは」というテーマで行われた。杉並区の博物館、図書館、社会教育センター等の公共施設に勤めている人たちや社会教育委員が集まって、現代の世相にみられる現象を数多く記述して、共通のキーワードを探した。それによって、人間関係の希薄さ、家族・隣近所・異なった年代等の言葉のやりとりの減少ということに気がついた。そのことを解消する手立てはないかということで、公共施設におけるサービスの改善をしたり、住民の活動の場を与えたりする等の活動をしたところ、かなりの効果があった。色々な形で活動をしている人たちが、自分たちのサークルを通して、やりとりの復活を目指した。大体が、子どもよりも成人を対象としたもので、そのひとつに「すぎなみ大人塾」がある。大人が大人としてちゃんと機能しているか、大人がちゃんとしていないとだめではないかということも強調されていた。（配布資料：委員研修報告「関東甲信越社会教育委員大会第五分科会報告」参照）

○議長：

西東京市にも「すぎなみ大人塾」のような成人を対象とした事業はありますか。

○事務局：

公民館で高齢者対象講座を行っているが、仲間づくりも目指して色々なテーマを学習する内容になっている。参加者がお互い講師になったり、行政からの地域課題、要するに、扱うテーマを一つ一つ地域に引き寄せていくかたちでテーマ設定をしたりして、そこで関わる部分を見つけながらやっていくということで、おそらく、テーマ設定の仕方と参加者がどのような立場で参加するのかということ、成人対象講座もいろいろな組み立てられ方があるのではないかと思う。成人向けの講座も、地域での仲間をつくるという段階もあれば、個々人の知的好奇心を満たすような内容で設定する講座もある。「すぎなみ大人塾」はもっと地域づくりに地域の方々を巻き込みたいという視点を持って組み立てられているものではないかと思う。

○議長：

分科会のご報告ありがとうございました。今回の研究大会で得たものを、私たちがまとめる提言づくりに活かしていけたらと思います。

3 地域教育フォーラム（11月27日午後）の報告

○議長：

続いて27日午後の地域教育フォーラムはいかがでしたか。

○委員：

講師の記念講演の中で、何か一つの目的を持って子どもたちが集中して何かを行うことがすごく大事だということ、行動を移す前に考えて行動するような子どもに育てましようという話があった。パネルディスカッションでは、子どもたちの多様な体験の機会を広げるためにも子どもたちの力を信じて活動させることが大事だという話もあった。

○委員：

東京都の教育委員会は、教育支援コーディネーターというのを推進しているのか。

○事務局：

東京都で進めている「放課後子供教室」や「学校支援地域本部」などでは、いろいろな教育支援コーディネーターとしての人材が配置されている。市町村で学校支援本部等がある区市町村には「地域コーディネーター」という人材が配置されており、その方たちの研修機会を保障するという意味でも、今回のようなフォーラムを研修会として開催しているようである。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（12月定例会）は終了する。

次回会議

平成23年1月21日（金曜日）午後3時から